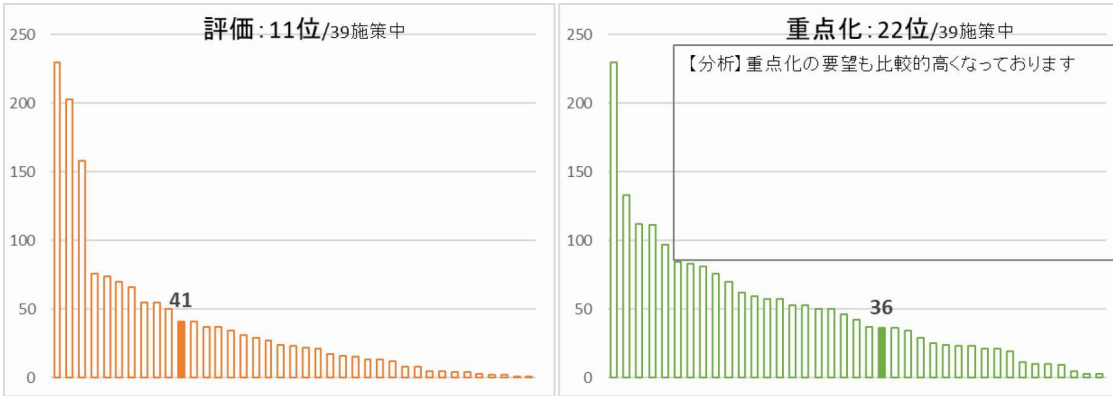


⑤ コミュニティの育成と地域活動の支援 ≪評価：63.0点≫

市民意識調査結果



施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	
		H29	H30	R1	
成果指標 地域おこし協力隊員地元定着率	目標	%	60.0	60.0	60.0
	実績	%	100.0	100.0	60.0
	達成率	%	166.7	166.7	100.0
	ベンチマーク				
参考指標① 年間提案数（政策提案事業・協働提案事業）	目標	件	4	4	4
	実績	件	3	2	3
	達成率	%	75.0	50.0	75.0
	ベンチマーク				
参考指標② ボランティア、NPO活動団体数	目標	団体	30	30	30
	実績	団体	31	31	37
	達成率	%	103.3	103.3	123.3
	ベンチマーク				
参考指標③ この1年で何らかのボランティア活動を行ったことのある市民の割合	目標	%	45	45	45
	実績	%	—	36.9	—
	達成率	%			
	ベンチマーク				

評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
	評価採点	4		2	1	3	2
担当課判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊員が、任期終了後も市内に定住し地域活動に携わり続けていただくことは、地域の活性化に大いに役立つこととなります。 						
市民委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・活発な動きがあることの参考になる。 ・まちづくり会議の指標がない。 ・これは指標にならない。他に大切なものがあると思う。 ・ここ数年、成果指標の目標が同じなため、どうなれば良い方向になるのかわからない。 ・数字にするのが難しいと思う。 ・協力隊員の定着率と地域コミュニティの活性化の関連が不明。指標③はOK、指標②は活動数（どのようにカウントするか難しいか？）指標①は寄与不明。 ・団体数は指標にふさわしくない。 						

事業構成の 適当性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		4		4	2	3	3	3
	評価採点			3	2	3	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 地域の様々な課題を解決するために、まちづくり事業の推進や地域おこし協力隊の活用について支援を行っていきます。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり会議をそこに含めるとよいのではと感じます。 他の大きな目標を。 施策評価シートと事務事業評価シートとの整合性のないシートがある。 地域、行政、協力隊員間の連携と役割が不明確。 現成果指標としては妥当。 縁結び、サイクリングの事業はこの施策の成果をあげるのに適しているのか？ 							
施策の 有効性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3		4	3	3	3	3
	評価採点			3	3	3	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 自治会、まちづくり団体の活動を支援し、協働のまちづくりを推進します。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> もう少しあげても良いように感じます。 協力隊員の定着率68.1%というのが市民にとって分かりにくい。 							
R2年度の 取組内容	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
				4	1	3	3	2
	評価採点			3	1	3	3	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊は、R2.4月現在7名を任用し、地域協力活動等に引き続き取り組んでいる。本年度中に2名の隊員が任期終了となるが、本市への定住に向けてサポートを行っていく。 地域と行政が、力を合わせて持続可能な地域づくりを進めていくために、各地域の地域担当職員による支援とともに県内で支援実績をもつNPOの助言指導を受けられる事業を導入し、まちづくり会議の立ち上げと地域の課題解決に向けての活動を支援していく。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 妥当だと感じます。 支援のための会議や協力対応ができていない。 地域おこし協力隊に対して、地域と行政が力を合わせて持続可能な地域づくりを進める必要がある。支援するとあるが、言葉だけであるように感じる。 							
R3年度の 取組目標	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
				4	1	3	3	2
	評価採点			3	1	3	3	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊2名が、3年の任期を終えることから、その後の起業・定住について支援を行う。また、必要に応じて新規募集を行い、その他の隊員についても、その能力を十分に生かして活動できるように引き続き支援を行う。各地域の自主的な取り組みとしての「まちづくり会議」の立ち上げと運営を地域担当職員と共にサポートしていく。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 助成金等を扱う部署なので、とにかく公平性を保ってほしい。 この目標を達成することにより、このような地域の活性化が実現したとの報告がこの6年間でない。持続可能な地域づくりとは言葉だけになっている。 地域とのコミュニケーション不足。 							

市民委員から見た課題

- ・協力隊は手段であって、目的、目標ではないのでは？（NPO、ボランティアも同様）また、この施策のどの目的のために地域おこし協力隊があるのか。幅広すぎてそこができていないので、常に目的を明確に。
- ・指標は数値で出すのは難しいので、結局満足度が大切になると思う。
- ・合併前の地域独自の制度等が合併後も続いているものがある。それは仕方がないと思うが、合併後15年にもなるのだから、早急に直していただきたい。行政はどの地区にも公平であるべき。
- ・地域の方がどれだけ本気になっているか行政が理解できていない。働きが見えない。
- ・地域協力隊と地元とのつながりが薄いように思う。
- ・サイクリングはこの施策の目的とつながらない。他の施策すべきなのでは？

長期的に取り組むべき課題

特になし

委員会後の担当課対応

- ・⑧施策の評価 1 成果指標の妥当性の記述（協力隊員の定着率と地域コミュニティの活性化の関連が不明）
→協力隊員の定着率と地域コミュニティの活性化の関連について、追記しました。
- ・進行年度（R2）の取組内容の記述（地域と行政が力を合わせて持続可能な地域づくりを進める、支援するとあるが、言葉だけであるように感じる。）
→具体的な表現に修正しました。
- ・今後の対応
助成金等を扱う部署なので、とにかく公平性を保ってほしい。
→区会等補助金について、継続して見直しをします。
地域とのコミュニケーション不足
→座談会（意見交換会）やまちづくり会議等で引き続き地域とのコミュニケーションを図ります。